



ことしば



【学校教育目標】

「挑戦し、未来を拓く『琴芝っ子』の育成」

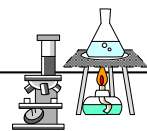
11月号

ノーベル賞受賞者に学ぶ ～ 好奇心、執着心、ポジティブ思考 ～

秋も次第に深まり、紅葉の美しさに心を洗われる季節になりました。一方で、東日本の広い範囲で、台風19号の被害に遭われた方がたくさんいらっしゃいます。心からお見舞いを申し上げます。

さて、昨年の今頃は、宇部市は、本市にゆかりのある本庶佑さんが、ノーベル医学・生理学賞を受賞され、その喜びに沸き、お祝いムードに包まれていました。そして、今年もまた、日本からノーベル賞受賞者が選ばれました。携帯電話・スマートフォンなどに使われるリチウムイオン電池の開発者である、吉野彰さんです。ニュースでも大きく報じられ、その中で、吉野さんが大切にされていたことを、インタビューの言葉からいくつか拾ってみました。

(1) 『興味関心(好奇心)』



「ロウソクはなぜもえるのか、炎はなぜ黄色いのか、子ども心におもしろそうだった」

小学校4年生のときに担任の先生から薦められた『ロウソクの科学』という本がきっかけで、化学がおもしろそうだったそうです。また、大学時代には、化学を専攻しながら、分野としては全く違う考古学も一生懸命に勉強したそうです。それが、自分の見方を広げ、その後も時代の流れを見るのに役立ったとのこと。高校時代には、部活動として水泳にも打ち込んだということです。まず、興味(好奇心)を持つことが第一歩です。

(2) 『継続(執着心)』

「(研究者に必要なことは)頭の柔らかさと、その真逆の執着心。しつこく最後まであきらめない」

『継続は力なり』という言葉があります。何事も目先の結果にばかりとらわれないで、大きな目標や夢を叶えるために、あきらめず努力し続けることは、とても大切なことです。逆に『三日坊主』という言葉もあるように、なかなか結果の見えないことをこつこつ続けるということは、苦しいものです。つい、楽しいことや目立つことに心を奪われ、逃げてしまいそうになります。その時に『己の意志』が大切になります。まさに、昨年度受賞された本庶さんの座右の銘『有志竟成(ゆうしきょうせい)』です。

(3) 『ポジティブ思考』



「壁にぶち当たるのはしょっちゅう。どうせ乗り越えなきゃいけない壁なら、早く出てきてくれてありがたい、そうポジティブに考えた」

「壁に感謝」するとは、なかなかできないことです。でも、そこから逃げては、何も生まれません。だからこそ、物事を前向きに捉えることで、困難に挑戦し、乗り切ることができたのではないかと思います。「ピンチはチャンス」という言葉もあるように、物事を違った角度から見ることも大切です。

この3つは、これまでの受賞者にも共通しています。私たち大人は、子ども達に『興味関心(好奇心)』を持たせ、困難なことに出会ったときには『ポジティブ思考』を促し、スモールステップで『継続(執着)』している姿を認め、褒めることが未来に生きる子ども達を育てることにつながるのではないかと思います。



校長のつぶやき

感動！ラグビーワールドカップ



ラグビーのワールドカップが開催されています。テレビで日本代表の試合を見ているうちに、にわかラグビーファンになってしまいました。体と体が激しくぶつかり合い、痛々しいばかりのテーピング。それがなぜ『紳士のスポーツ』？その理由を、試合の中で感じる場面がありました。それは、準々決勝の南アフリカ戦です。勝利をめざして必死に戦う日本ですが、残念ながら強豪相手にはなかなか点が取れません。そのまま80分が経過し、試合終了のホーンが鳴りました。すでに勝敗は決しており、南アフリカがボールを蹴り出せばノーサイドです。しかし、なお全力で攻めています。日本も必死に食い下がっています。見ている私も力が入ります。なるほど勝敗にかかわらず最後まで全力を出し切る姿が、『紳士のスポーツ』と言われる由縁の1つだと実感した、とても爽やかなシーンでした。